

自覚・熱意・挑戦をキーワードに教育の質をレベルアップ

東京工業大学学長 三島 良直氏

世界最高の理工系総合大学実現を目指す

本誌 東京工業大学の母体は明治政府が一八八一年（明治一四年）に設立した東京職工学校です。

三島 本学の前身は東京の蔵前に創設された東京職工学校で、今年で創立一三一年になります。東京職工学校はその後、東京工業学校、東京高等工業学校を経て、一九二九年に旧制の東京工業大学、一九四九年に新制の国立大学となり、二〇〇四年の国立大学法人法の施行に伴い、国立大学法人東京工業大学となりました。現在、理学部・五学科、工学部・一六学科、生命理工学部・二学科の三学部二三学科と理工学、生命理工学、総合理工学、情報理工学、社会理工学、イノベーションマネジメントの六大学院研究科・四五専攻・一複合創造領域に加え、四附置研究所（資源化学、精密工学、応用セラミックス、原子炉工学）など多くの研究教育施設を擁し、学生数は研究生大学院生を含め約一万人にのぼっています。また、キャンパスは東京・目黒区の大岡山キャンパスのほか、神奈川県横浜市にすずかけ台キャン

パス、東京・港区に田町キャンパスがあります。

本誌 「世界最高の理工系総合大学の実現」を長期目標に掲げていますが。

三島 本学では二〇〇九年に約一〇年を見据えた東京工業大学将来構想「東工大ビジョン2009」を策定、世界最高の理工系総合大学の実現に向けて、世界的な視野に立って大学力を高め、社会的に貢献し得る分野を重点的に強化しています。

私も新学長として同ビジョンのもと、「自覚・熱意・挑戦」をキーワードに大学改革と教育の質のレベルアップを進め、世界最高の理工系総合大学を目指していきます。そのために、学生自らが自分で考え、動くことをサポートし、学生の主体性を高めることに力を注ぎたいと考えています。また、インタラクティブな講義を増やし、先生と学生、学生同士間などのディスカッションが盛んに行われ

る環境を整えたいと思っています。

人間力を備えたグローバル理工人を養成

本誌 東工大は科学技術のみならず、人文科学にも力を入れていますね。

三島 本学は理工学分野の研究者や教育者、さらに産業界の技術者や経営者として指導的役割を果たすことのできる人材を育成することを使



大岡山キャンパス



三島良直（みしま・よしなお）氏

1949年6月生まれ。1973年・東京工業大学工学部金属工学科卒業。1975年・同大学院理工学研究科金属工学専攻修士課程修了。1979年・カリフォルニア大学バークレー校大学院博士課程修了。同年・同校材料科学専攻アシスタントリサーチエンジニア。1981年・東京工業大学精密工学研究所助手。1989年・同助教授。1997年・同大学院総合理工学研究科教授。2006年・同大学院総合理工学研究科長。2011年・同理事・副学長。2012年10月・東京工業大学学長に就任。Ph.D. (UC Berkeley)。工学博士（東京工業大学）。
 教育ポリシー：時代を創るグローバル理工人。学部：理学部、工学部、生命理工学部。学生数：10,008名（2012.5.1現在、研究生・大学院生含む）。

現代社会には環境問題やエネルギー問題、食糧問題、水問題、高齢化社会、医療・介護問題など地球規模で課題となっているテーマが数多くあります。こうした課題を解決するために、理工系大学の研究と教育に寄せられる期待はますます高まっています。本学では世界最高レベルの研究を推進するとともに、国際交流を積極的に図り、国際的リーダーシップを発揮できる創造型人間の育成を行ってまいります。

命としていますが、文系の素養も大切にしております、私が学生だった頃から理系科目だけでなく、文系科目も同時に教えることで有名でした。文系科目を学ぶことで幅広い視野や、日本や異文化の理解などを身につけることができます。自分の専門分野や得意分野に加え、幅広い教養を持つことは、大学教育の大きな課題であるグローバルに活躍できる人材の育成に必須のものです。このように、本学は以前から国際的に通用する人材の養成を図ってきましたが、これを今後さらに強化し、人間力を備えたグローバル理工人の養成を急ピツ

ちで進めていきたいと思っています。また、国際交流の強化も進め、本学に世界中の優秀な学生が次々と留学に来る、そして本学の学生も続々と世界に出ていくという国際色の強い大学になりたいと考えています。
本誌 産学共同研究を意欲的に行っていますね。
三島 文部科学省の大学的財産本部整備事業に基づき、二〇〇三年に本学に産学連携推進本部が設置され、研究の成果として生じた知的財産の権利化、ライセンスング・実施化を図るとともに、産業界との協力を積極的に構築しており、同本

部が窓口になって産学共同研究を展開しています。本学は基盤技術から最先端技術まで層の厚い技術力を誇り、研究分野も機械、化学から情報通信、材料・ナノ、バイオ、環境まで広範で、発明届は年間約五〇〇件もあります。こうした知的財産を産学連携の核として、今後も企業などとの共同研究を活発に行い、新産業の創出、イノベーションを促し、社会に貢献していきたいと思っています。また、大学で研究に没頭している世の中や産業界がどのように動いているかが見えなくなってしまうので、産学共同研究により学生と企

業の研究者との出会いの場をつくり、学生の視野を広げていきたいとも考えています。
本誌 東工大では二〇〇六年に当時国内最高速であったスーパーコンピュータ「TSUBAME（ツバメ）」を導入しましたが。
三島 現在は、二〇一〇年に運用を開始した「TSUBAME2.0」のバージョンアップを進めています。が、本学の使命はこうしたスパコンなどを使って新しい価値を生み出していくことで、その研究の社会的意義や成果を社会に伝え、社会にどのように貢献しているかをアピールすることも本学の役割だと思っています。